

<b>Course number</b>		U-LAS70 10001 SJ50			
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー：身のまわりの生活から探求する文化人類学入門		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Institute for Research in Humanities Associate Professor, SAKAI TOMOKO	
	ILAS Seminar :Introduction to Everyday Anthropology				
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences		<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b> 1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2025・First semester		<b>Quota (Freshman)</b> 9 (9)
<b>Target year</b>	Mainly 1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors		<b>Days and periods</b> Mon.5
<b>Classroom</b>	Seminar room 2 (room 102), Institute for Research in Humanities Main Bldg. (Main Campus)			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	文化人類学 / 日常生活 / 身体 / 空間 / きたない・きれい				
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>身近な日常生活における、身体やモノや空間にかかわる営みについて考える。また、自分自身の日常生活がどのように形作られ、いかなる社会的な力がそこにはたらいているのかを批判的にみる目を養う。</p> <p>「汚穢」「乱れ」「おぞましい」などをキーワードとする学術エッセイ集を最初の手がかりとし、参考文献の読み方、まとめ方、探し方の基礎を学ぶ。</p> <p>その後、自分自身と共同生活者の身体と生活空間をケアする作業として、誰が、具体的に何を行い、どのくらいの時間と手間をかけているのか、それらは何を目的とした作業なのかを記録し分析すること等を通じ、日常を構成する物質的な側面を意識的に見つめてみる。身の回りの場所や人についての入門的な調査（聞き取り・観察）もまじえながら、人類学的な研究手法を実践的に学ぶ。</p> <p>授業の最後には各自が生活を題材とした学術エッセイ（＝期末レポート）を仕上げ提出・共有する。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>1) 文化・社会人類学の基礎的なアプローチを理解し、テキストの内容を正確に要約できるようになる。</p> <p>3) 身近で具体的なものの細かな部分に注意を払い、わかりやすく記述するとともに、それを抽象度の高い理論的なまなざしと組み合わせる文章を書く力を身につける。</p> <p>4) 他の受講者の発表や文章に関心を持って聞き、読み、その内容について踏み込んだ議論をする力を身につける。</p>					
<b>[Course schedule and contents)]</b>					
<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 「きたなさ」と家事と生活という問題系</p> <p>(3) 文化人類学者とは何をする人たちなのか</p> <p>(4) 身体と生活空間のケアにかかわる記録を自分でつけてみる</p> <p>(5) 学術エッセイをレビューする・発表1</p> <p>(6) 学術エッセイをレビューする・発表2</p> <p>(7) 学術エッセイをレビューする・発表3</p> <p>(8) 現地調査入門・準備編</p> <p>(9) 現地調査入門・実践編</p>					
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー：身のまわりの生活から探求する文化人類学入門(2)</div>					

- (10) テキストを自分で探してレビューする・書籍編
- (11) テキストを自分で探してレビューする・論文編
- (12) 生活に関わる学術エッセイ文章の構想発表・発表1
- (13) 生活に関わる学術エッセイ文章の構想発表・発表2
- (14) エッセイ草稿のピアレビュー
- (15) フィードバック

#### [Course requirements]

None

#### [Evaluation methods and policy]

個別発表：40%

期末レポート（エッセイ）：40%

授業中の議論への参加：20%

#### [Textbooks]

酒井朋子・奥田太郎・中村沙絵・福永真弓編 『汚穢のリズム 日常の感覚をめぐるエッセイと対話』（左右社、2024年）

#### [References, etc.]

（References, etc.）

アラン・コルバン 『においの歴史: 嗅覚と社会的想像力』（1990）ISBN:978-4938661168

メアリ・ダグラス 『汚穢と禁忌』（2009）ISBN:978-4480091864

松村圭一郎・中川理・石井美保 編 『文化人類学の思考法』（2019）ISBN:9784790717331

#### [Study outside of class (preparation and review)]

自分自身の毎日のふるまいや行いを、とくに身体・空間・モノ・感覚経験（知覚経験）に注意して見つめなおし、気づいたことがあれば頻繁にメモを取ったり写真など記録に撮っておいてください。

#### [Other information (office hours, etc.)]

#### [Essential courses]